

「あなたのもてるもの！！」

使徒 3:1 ~ 10

■ 電話交換手の女性

昔、電話をつなぐには電話交換手が必要でした。ある電話交換手の女性が退職を迎えることになりました。退職の日に気がかりがありました。毎日 11 時 55 分に時間を確認する男性から電話がかかってくることでした。退職の日、いつもの時間に電話があり、電話交換手の女性は男性に今日で退職することを告げました。その男性は 12 時にサイレンを鳴らす仕事をしていたので、自分の時計が合っているか確認していたことを最後の日に知りました。

現在は GPS の原子時計により正確な時間を知ることができますが、昔は時計はずれるものでした。電話交換手の女性はサイレンの音を頼りに時計を合わせ、男性は女性の時計を頼りにサイレンを鳴らしていました。両者が正しいと信じている情報がずれている時、頼っているものが確かでない時、人はずれてしまうことを例えています。

■ あなたは誰ですか？と聞かれたら

この質問に多くの人は、相手が何を求めているかを考えて答えるのではないのでしょうか。その時に答えのものになるのが、職業や資格、できることや興味のあること、つまり自分の「持っているもの」ではないのでしょうか。

■ 金銀は私にはない

『ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。すると、生まれつき足のなえた人が運ばれて来た。この男は、宮に入る人たちから施しを求めするために、毎日『美しの門』という名の宮の門においてもらっていた。ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、『私たちを見なさい』と言った。』（使徒 3:1 ~ 4）

エルサレムの巡礼の地、美しの門には物乞いの人が今でもいます。貧しい人に施しを与えることは良いことであるように見えます。以前フィリピンに行った際、貧しい子ども達が物を売りに近づいてきたことがあります。かわいそうに思い、買ってあげようと思った時、現地の人に止められました。「彼らに渡したお金は彼らのためにはならない。その施しは彼らを救うことにはならない。」対処療法では人を救えないことを知りました。

■ 立てない男の願い

生まれつき歩けないこの男性の願いは本当にお金や物だったのでしょうか。「するとペテロは、『金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい』と言って、彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、おどろき上がってまっすぐに立ち、歩き出した。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。」（使徒 3:6-8）足のなえた男は願いを諦めていたのです。

靴を願った男の子のストーリーが紹介されました。貧しく、靴が破れた男の子が公園で出会ったのは、きれいな服を着て、いい靴を履いた男の子。貧しい少年は「彼のようにになりたい」と目を閉じて強く願います。目を開けると、願いが叶えられていました。願いが叶えられ、破れていない靴を手に入れた貧しい少年が知ったのは、祝福に見えた少年が歩けないということ。自らが持ってい

るものを知らなかった彼は失ってはじめて、持っていたものの素晴らしさを知りました。

■ 願いがずれている

また、結果与えられるものを願うこともあります。例えば 1 年の豊富を尋ねると「健康」と答えるにも関わらず、毎日カップラーメンを食べる人がいたとします。この方の願いはカップラーメンを食べなくても満たされること、健康は結果得られるものではないでしょうか。願いが「幸せ」と答える方も同じ。存在意義を理解し、使命を果たすので必要とされ、皆が感謝する。結果、私の心にある「幸せ」という価値が引き上げられるのです。願いがずれていると、結果得られるものは得られません。

■ ペテロは持っているものを知った

ついていくと約束したのに裏切ったペテロ。ペテロは自分がイエス様についていくと思っていました。ペテロは牢でも死さえも覚悟していると自信満々にイエス様に言っていました。でも、実際は逃げてイエス様を知らないで 3 度も否定し、自分の無力さに絶望しました。自分は何もできない、そんな資格はないと感じていたもので、元の仕事に戻りました。そこにイエス様の方から近づいて、ペテロがもう一度立ち上げられるようにしてくれたのです。ペテロがついて行っていたのではなく、イエス様が共にいて下さったのです。

私たちが持っているものの価値を知らなければ用いることができません。水戸黄門が印籠を出したとき、価値を知らなければ人には意味がないでしょう。例えば高価で体にいいと言われるもの、価値を知らなければ誰かからプレゼントされても正しく用いることができないでしょう。例えば外国のお金、値打ちを知らなければ持っていて使えないでしょう。

レーナマリアさんは生まれつき、両腕がなく、両足も半分くらいしかありませんが、「私には手が肩まである」言いました。クリスチャンが持っているのは、イエス様が共にいることを信じること。すべて持っているものは神様が与えてくださった恵みと感謝できること。そして、イエス様の名前によって祈れば、神様がよくしてくださる、奇跡も起こしてくださることを知っていることです。

■ 持っているものを誰かのために

「まことに、まことにあなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」（ヨハネ 21:18）ペテロのように、自らのために生きるのではなく、必要とされる所で、本当の救いを伝えたいと願います。多くの人の願いが回復され、多くの人が生き方を変える奇跡を信じます。

「そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議と奇跡が行われた」（使徒 2:43）私たちが願っているよりも大きな神様の祝福があることを信じます。

（要約者：藤原友規子）

（2020年5月31日）